

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.  
-----

「アジア・アフリカ地理言語学研究」2022年度第1回研究会

日時：2022年7月23日（土）9:00-17:45, 2022年7月24日（日）9:00-12:15

場所：オンライン会議室

使用言語：英語

以下は各人による要約：

1. Chitsuko FUKUSHIMA (ILCAA Joint Researcher, University of Niigata Prefecture)

“Theoretical Framework for System of ‘Sibling’ terms”

アジア・アフリカの言語におけるキョウダイ名の体系についての地理的分布を明らかにすることが今回の研究会の目的である。Murdock (1968) と 松本 (2006) を参考に、本人から見た年齢差・相手の性別・本人から見た性差により基本的な体系を区別し、それぞれの型に対して記号を与えた。まず年齢差と性別の関係により A~E 型を区別し、それらと性差の関係により F 型およびその変種 (FB~FE 型) を区別した。さらに個別の型名については、その体系における名称の数をつけてもらうこととした。また、松本 (2006) で提案されたいくつかの普遍的規則の妥当性についての検証も可能であろう。

松本克己 (2006) 「第 18 章 世界諸言語のきょうだい名」『世界言語への視座 歴史言語学と言語類型論』三省堂。

Murdock, George Peter (1968) Patterns of Sibling Terminology. *Ethnology* 7(1): 1-24.

2. Kimihiko KIMURA (ILCAA Joint Researcher, TUFU), Hiroshi NAKAGAWA (ILCAA Joint Researcher, TUFU)

“System of ‘Sibling’ terms in the Kalahari Basin Area”

本発表では、カラハリ言語帯で話される 14 の標本言語について、キョウダイ名体系の地理的分布を報告した。基本的にキョウダイ名の各型の分布は、各言語の属する語派によって説明できることが分かった。また、コエ・クワディ語族のカラハリ・コエ語派内部には年齢二項型が分布しているが、その中のいくつかの言語で中立一項型が共存していることが確認された。

3. Daisuke SHINAGAWA (ILCAA), Junko KOMORI (ILCAA Joint Researcher, Osaka University)

“System of ‘Sibling’ terms in Bantu”

本発表では、バントゥ諸語を主とするニジェール・コンゴ語族の 50 言語のキョウダイ名の語彙体系に関するサーベイの結果を報告した。収集しえたデータの範囲では、A タイプ (undifferentiated), B タイプ (relative age) は西部の非ベヌエ・コンゴ系の言語に多く見られるのに対し、バントゥ諸語の多くは性差 (relative sex) が関与する F タイプ系の体系を有する傾向が認められた。また、バントゥ祖語の再建語彙を検討したところ、おそらくバントゥ祖語段階から相対性差の区分がなされていたものと推定される。

4. Shuichiro NAKAO (ILCAA Joint Researcher, Osaka University)

“System of ‘Sibling’ terms in Nilo-Saharan”

本発表では、ナイルサハラ語族の約 100 言語のサーベイにより、①大部分の言語は A 型ないし E 型であり、ごくわずかに C 型・FB 型がみられることや②特にチャド東部・スーダン西部の諸言語には、複数のシステムの併存がみられることなどを明らかにした。

5. Youichi NAGATO (ILCAA Joint Researcher, TUFUS)

“System of ‘Sibling’ terms in Semitic”

(要旨未着)

6. Takamasa IWASAKI (ILCAA Joint Researcher, JSPS/ Kyoto University)

“System of ‘Sibling’ terms in Iranian”

イラン諸語における兄弟姉妹の名称は、多くの印欧語と同じく基本的に性のみを区別するタイプが優勢である。次に多いタイプは、性の区別の軸に新しく年齢の軸が追加されたもので、恐らく言語接触や、社会体制の変化といった影響により年上を表す語が体系に侵入することで発生したと考えられる。この体系には男女のどちらかでのみ年長を指す語彙がある言語から、両方ともある言語までが含まれる。また、多くのイラン諸語で、兄弟 (とりわけ兄) を指す語が人への呼びかけの際に用いられる。

7. Chitsuko FUKUSHIMA (ILCAA Joint Researcher, University of Niigata Prefecture)

“System of ‘Sibling’ terms in Japonic”

日琉語におけるキョウダイ名の体系の資料として『現代日本語方言大辞典』と『図説琉球語辞典』を用いた。前者は日本語の体系、後者は琉球語の体系に基づいた調査結果であるため、別々に地図化した。日本語は、八丈を除く全域に D4 型 (年齢・性別 4 項型) が分布するが、年齢差のみ区別する B2 型にもとづく「きょうだい」の総称名をもつ地点が西日本の一部と八丈にある。また、八丈には、「年下のきょうだい」を性別で区別しない C3 型がある。琉

琉球語は性差による区別をもつ体系が一般的で、異性のキョウダイ名2種に加え、「同性のきょうだい」については「年上のきょうだい」のみ性別で区別する FC5 型が全域に分布する。変種として、「同性のきょうだい」について年齢差のみ区別する FB4 型や、異性のキョウダイ名を1種だけ答えた FC4b 型や FB3 型、さらに FB4 型から FC5 型への移行中とみられる FC4a 型（「年上のきょうだい」を表す seza が「兄」として使われる、「兄」「姉」どちらかの名称しか回答されない）があった。

平山輝男編(1992-4)『現代日本語方言大辞典』明治書院.

中本正智(1981)『図説琉球語辞典』金鶏社, 力富書房.

#### 8. Rei FUKUI (The University of Tokyo)

“System of ‘Sibling’ terms in Korean”

(要旨未着)

#### 9. Fumiki SUZUKI (Nanzan University), Kenji YAGI (Kokushikan University)

“System of ‘Sibling’ terms in Sinitic”

(要旨未着)

#### 10. Chikako ONO (ILCAA Joint Researcher, Hokkai-Gakuen University)

“System of ‘Sibling’ terms in Chukotko-Kamchatkan”

(要旨未着)

#### 11. Mika FUKAZAWA (ILCAA Joint Researcher, National Ainu Museum)

“System of ‘Sibling’ terms in Ainu”

アイヌ語は基本的に「性差・年齢・性別型」と呼ばれる FD5 型に分類され、その歴史的な変遷は松本 (2006) に詳しい。「兄」、「姉」、「弟」は「年齢・性別型」の D 型とみなすことができるが、「妹」には男性と女性が指す場合によって区別がある。樺太ライチシカ方言は「年齢・性別型」の D4 型に該当すると考えられるが、語彙のバリエーションから一部の方言が FD5 を表していた可能性も否定できない。また、千島北部の方言も情報が少ないため、資料によっては B2 にも D4 のようにも見えることがある。語彙的な特徴として、方言間で「姉」を表す語形が「母」を表す語形と同一である場合がある。

#### 12. Yoshio SAITO (Takushoku University)

“System of ‘Sibling’ terms in Mongolic and Turkic”

モンゴル諸言語とそれらに隣接するシベリア南部のテュルク諸言語は、年齢の上下の区別はするが性別による区別は上の年齢のみという年齢・性別3項型である。中央アジアとその

北西に分布するテュルク諸言語は年齢の上下も性別も区別する年齢・性別4項型が多い。西アジアのテュルク諸言語では性別のみの区別の性別2項型が目立つ。なお、中央アジアのトルクメン語(テュルク系)では年齢も性別も区別しない中立1項型と年齢だけ区別する年齢2項型とが混在している可能性がある。また、ダグル語(モンゴル系)は、新疆ウイグル自治区の方言においては黒龍江省の方言と異なり「姉」について性差による区別があり、中央アジアのキルギス語(テュルク系)は「妹」について性差による区別がある。シベリアのサハ語(テュルク系)には「姉から見た弟」を表す語がある。

13. Keita KURABE (ILCAA), Shiho EBIHARA (ILCAA Fellow), Kazue IWASA (ILCAA Joint Researcher, Nagoya University of Foreign Studies), Satoko SHIRAI (ILCAA Joint Researcher, The University of Tokyo), and Hiroyuki SUZUKI (ILCAA Joint Researcher, Kyoto University)

“System of ‘Sibling’ terms in Tibeto-Burman”

チベット・ビルマ諸語には幅広いタイプが観察される。我々のデータには少なくとも以下のタイプを持つ言語が確認できる。中立1項型(i.e., ‘SI’)、年齢2項型(i.e., ‘eSI’ / ‘ySI’)、年齢・性別3項型(‘eB’ / ‘eZ’ / ‘ySI’ または ‘eSI’ / ‘yB’ / ‘yZ’)、年齢・性別4項型(i.e., ‘eB’ / ‘eZ’ / ‘yB’ / ‘yZ’)、性別2項型(i.e., ‘B’ / ‘Z’)。さらに、性差を含むタイプとして、性差・年齢3項型(e.g., eB (m.s.) or eZ (f.s.) / ‘yB (m.s.) or yZ (f.s.) / ‘SI (different gender))、性差・年齢・性別5項型(e.g., ‘eB’ / ‘eZ’ / ‘yB’ / ‘yZ (m.s.)’ / ‘yZ (f.s.)’; ‘eB’ / ‘eZ’ / ‘yZ’ / ‘yB (m.s.)’ / ‘yB (f.s.)’)、性差・年齢・性別6項型(e.g., ‘eB’ / ‘eZ’ / ‘yB (m.s.)’ / ‘yZ (m.s.)’ / ‘yB (f.s.)’ / ‘yZ (f.s.)’)、性差・性別4項型(e.g., ‘B (m.s.)’ / ‘Z (m.s.)’ / ‘B (f.s.)’ / ‘Z (f.s.)’)などが観察される。このうち、ある程度の分布を持つタイプとして、年齢・性別4項型、年齢・性別3項型、年齢2項型、性差・年齢・性別型などがあるが、同一タイプがそれぞれ離散的に分布しているため、通時的考察をさらに進める必要がある。

14. Atsuko UTSUMI (Meisei University)

“System of ‘Sibling’ terms in Austronesian”

(要旨未着)

15. Masaaki SHIMIZU (ILCAA Joint Researcher, Osaka University), Makoto MINEGISHI (ILCAA)

“System of ‘Sibling’ terms in Austroasiatic”

SEALang Projects (<http://sealang.net/>) および Munda Comparative Dictionary (<http://sealang.net/munda/dictionary/>) からデータを抽出した。B型およびC型が広く東南アジア大陸部とマレー半島に分布し、一部 Munda 諸語にもみられる。Munda 諸語は主にD型であり、山田(1963)の記述と一致する。ただし松本(2006)は、山田の記述がお

そらく性差の特徴が見過ごされたものとみなしている。性差を含む F 型、FB 型、FD 型がインド洋沿岸部の Munda、ニコバル諸島の Nicobaric、マレー半島南部の Aslian に点在する。また、FB 型がラオス北部の Khmuic, Palaungic、FB 型、FC 型がベトナム中南部の Katuic に点在する。

16. Ayaka HIRANO (Osaka University), Mitsuaki ENDO (ILCAA Joint Researcher, Aoyama Gakuin University), Aika TOMITA (Osaka Shoin Women's University)

“System of ‘Sibling’ terms in Kra-Dai”

最も広範に見られるのは年齢 2 項型である。次いで、年上キョウダイでのみ性別を区別する年齢・性別 3 項型、年下キョウダイでも性別を区別する年齢・性別 4 項型も多くの言語で観察される。年齢・性別 4 項型は主に Kra 語派に見られる。南西タイ語群全般と北方タイ語群のプイ語は年齢 2 項型、北方タイ語群のチワン語北部方言では年齢・性別 3 項型が主流である一方、中央タイ語群では年齢 2 項型と年齢・性別 3 項型を併用する言語が複数ある。中央タイ語群の地域から北方タイ語群や南西タイ語群へと広がっていく過程で、キョウダイ語彙の体系が単純化していった可能性が示唆される。

17. Yoshihisa TAGUCHI (Chiba University) and Boyan Tang (Chiba University)

“System of ‘Sibling’ terms in Hmong-Mien”

(要旨未着)

18. Noboru YOSHIOKA (ILCAA Joint Researcher, National Museum of Ethnology)

“System of ‘Sibling’ terms in South Asia”

インド・ヨーロッパ語族（インド・アーリヤ語派、ヌーリストン語派）、アンダマン語族、ならびに 4 つの系統的孤立語に関して、兄弟姉妹に相当する語彙をタイプ分類して、地理的分布を見た。各語彙それぞれのパタンを見た結果として、全体の分布的特徴を言えば、①南アジアのインド・ヨーロッパ語族は全般的に E2 タイプ（性差のみ）、②但し一部、周辺地域で、年齢差を追加した D4 や C3 というタイプも持つことが分かった。③系統的孤立語はブルシャスキー語が FE3（同性の兄弟姉妹、異性の兄弟、異性の姉妹）、クスンダ語が D4、ニハーリー語が C3 タイプであった。④アンダマン語族は A1（一語のみ）もしくは、B2 タイプ（年齢差のみ）の語彙を用いているが、そもそもそれらが語義的に親族名称だと考えにくく、兄弟姉妹に相当する語彙がないとも考えられることが明らかになった。

19. Nozomi KODAMA (ILCAA Joint Researcher, Kumamoto University)

“System of ‘Sibling’ terms in Dravidian”

(要旨未着)